

平成26年7月28日

事業の評価書

池田市長 殿

協議会名 細河地域コミュニティ推進協議会
 代表者名 金子昌義 印
 (広報部 西野 佳彦)

(※提案一覧により番号付番)
 1. コミ紙
 16. グランドゴルフ

記

<p>事業の内容(5)</p>	<p>1 ①広報紙発行 年2回(7月1日配布) 1月1日配布) 2 ②細河ホームページ維持管理事業 (5) ③細河ポストカード作成 (5) ④細河ハイキングマップ作成</p>	<p>継続事業 継続事業 新規事業 新規事業</p>
<p>事業実施前の状況</p>	<p>①7月号は5月の総会での前年度活動報告と今年度予算額と活動計画。役員の改選があれば発表。新規会員の紹介。地元にある神社仏閣を住職・神官より記事を寄稿してもらい正しい細河の歴史を説明してもらう。 ②文字を読むよりも総会ではパワーポイントで映像を見てもらって理解してもらう。広報紙を配布しない地域の方にはホームページで細河を紹介し、新規事業行事を知らせる ③昨年度の『細河の四季』フォトコンテストの入選者の作品を絵葉書として細河を全国的宣伝 ④表五月山よりも裏五月山コースのほうが野趣豊かで好きだという方が多く、専門家用にハイキングマップを作成しました。</p>	
<p>事業の効果</p>	<p>①時代的に読む時代から見る時代です。その方が理解度が深い。 ②最近地方の来訪者から 無二寺はどこですか?と尋ねられました。地元の方よりも歴史を勉強している方がよくご存じで尋ねてこられます。最近地元の歴史を語り継ぐ機会が少なく、若者に引き継ぐことができないのでこれを機会に広めていきたい。 ③都会に近い細河で田植・稲刈・彼岸花・ススキ・雪景色・狸・鹿などが簡単に見れます ④ラーメン記念館見学者は年間100万になろうとしています。次に池田で見るところは? 尋ねられたら栄町商店街・落語通りかな、ショウムナイと言われるに違いありません。ラーメン記念館訪問者の多い時代にこそ次の見せどころを企画せねばなりません。都会に近いところに自然があり、温泉があり、ゴルフ場があり、野生動物が多くみられる地域をもっと宣伝していく企画が必要です。</p>	
<p>今後の課題</p>	<p>①北摂地区では一番小さな市となって来ました。発展的要素もなく、高齢化人口ばかりの多くなる街になり、何かをしなければ隣の市に吸収合併されるか、大きく北摂市の中の池田区になって しまいます。</p>	

平成26年7月28日

事業の評価書

池田市長 殿

協議会名 細河地域コミュニティ推進協議会
 代表者名 金子昌義 (印)
 (総務部 橋本 肇)

記

<p>(5) 事業の内容</p>	<p>①“みどりの郷”として地区の案内所として協議会創設当初より開設(継続事業) ○観光案内・事務所づめ担当者が常駐(火曜日定休日 開所時間9:00~16:30) ○毎土曜日 朝市で野菜販売(9:00~11:00)お盆および正月は休み 地元住民による工芸品・墓参用生花を販売 ○趣味の文化教室開催 ○協議会会議・地元住民のコミュニケーション広場</p>
<p>事業実施前の状況</p>	<p>①元消防署分室であったが、改修後協議会事務所として活用 地元池田北高校性の美術部の皆さんで事務所壁面に地元を表す絵をペイントしてもらい親しみのある事務所になったが、最初は訪問客も少なかった。 地元以外の訪問者からの立ち寄り問い合わせ客が多くなってきた。 ②クールステーション(夏場に休憩場所として提供) 冷房設備・冷蔵庫・テレビセット・事務机・応接セット・湯呑グラスなど地元住民より無償寄付 ③地元散策マップ作成</p>
<p>事業の効果</p>	<p>①事務所の絵付により訪問客が増えた。学生にも地域分権活動の認知度を高めた。 ②最初は会員のみでの来訪でしたが、親しみやすから協議会の認知度が池田市の中で最高 他市からの地域分権の取材が増えた。 ③地元から不要家具の無償寄付で備品はほとんど準備できた。 ④小学校・農協・郵便局・バス停など全てが近くでクールステーションの来訪者として 便利な場所にある。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>✓①事務所の光熱費はかなりかかるが来訪者の為にはケチられない。 ✓②事務所があればコピー機がほしいパソコンが必要、茶葉やインスタントコーヒー、砂糖、ミルクなどの消耗品はかなりの金額が必要となる。事務所を保有し、ましては観光案内所としての役目を果たすならば、事務所も持たない協議会とは別に経費予算をつけてほしい。 ✓③『地元のことは自分たちの手で』を地域分権の標語としたならば、10年以上も継続して事業は協議会の事業でなく市の恒久的事業として経費を計上しなければならない。たとえば 防犯灯電気料・里山管理費用・コミュニティ道路整備事業・余野川沿い八重桜植樹事業</p>

平成26年7月28日

事業の評価書

池田市長 殿

協議会名 細河地域コミュニティ推進協議会
 代表者名 金子昌義 (印)
 (販売部 柏木 博)

記

(5) 事業の内容(5)	①野菜類朝市販売(継続事業) ②地元住人作成の工芸品展示販売(継続事業)
事業実施前の状況	①協議会創設以来7年を継続(毎週土曜日1回開催) 最初は屋根のある場所がなく、レジスターもなく出品者の番号で手計算して出品者支払っていたが、徐々にテントやパーゴードレジスターを設置し便利になった 最初は販売前の包装が下手で、商品のイメージが悪く商品価値を下げていた ②朝市野菜は来客多いが、展示室まで見に来る客が少なく売上げが伸びない
事業の効果	①7年経過し常連客も増えた。商品包装もスーパー品を見習い負けない程度となった。 一度食した方は新鮮さを実感してくれ、安価さもあり地方の親戚に発送する方もある。 販売場所で料理レシピ交換のコミュニケーションの場となっている。出品者が元気になり畑生産作業にも楽しみが増えた。 ②墓参・お見舞い・贈答品に生花・工芸品・手作り布ぞーりが好評である。
今後の課題	①雨天時の販売場所問題・来客用駐車場が少ない。 生産者の高齢化で後継者不足。常設の販売場所で常時展示・加工品等品数を増やし将来的には『小さな道の駅』をめざし、喫茶軽食部を設けたい。 ②市販の既製品でなく、手作り工芸品・お地藏さんの前掛け等をもっと販売したい。 手芸教室・趣味工芸品教室・家庭菜園・植木相談受付窓口などを開きたい

平成26年7月28日

事業の評価書

池田市長 殿

協議会名 細河地域コミュニティ推進協議会
 代表者名 金子昌義 印
 (観光部会長 中尾 好美)

記

<p>事業の内容</p>	<p>4 ①細河まつり補助金(継続事業) 5 ②散策道整備事業(継続事業) 3 ③細河PR事業(継続事業) 6 ④市民農園開発事業(新規事業) 7 ⑤東山植木見本園改修事業(新規事業)</p>
<p>事業実施前の状況</p>	<p>✓①田舎的かもしれませんが集客数では毎年池田市小学校の中ではNO1と思います ✓②表の五月山散策道ほどでもありませんが野趣豊かで専門家に人気があります ③『細河へいらっしゃい』と誰でも歓迎してきましたが、本当に細河の魅力を満喫したい方には企画内容が答えていないように思う ✓④遊休田んぼを使ってほしい方・家庭菜園をしたい人の紹介をしてくれる人なし ⑤植木の産地でありながら植木見本園は時代とともに流行で魅力あるように改修したい</p>
<p>事業の効果</p>	<p>✓①各町自治会から祭り担当者が選出され30年間継続されている ✓②1年を通じて倒木も多く、その片付け。道標前の草刈などで迷子にならぬように管理 ✓③細河園芸センターで植木競り市の見学・農園で大根堀経験・野菜試食会は大好評 ✓④スタート時点でてまどたが想像以上に問い合わせあり、収穫体験も好評であった ⑤中途半端改修でなく『植木塾22』の協力で全面改修を行った</p>
<p>今後の課題</p>	<p>①協議会会員と祭り委員はほとんど重複しており毎年盛大に開催し今後も必要 ✓②現在は参加者は少ないが徐々に評判がよくなりピーターが増えてきている ②基本的には細河協議会会員のボランティアで行われているが、里山管理自体は予算は協議会予算でなく大きな分野で検討してほしい。虫は今年は豪雨なく増大した。 ✓③街路灯の電気代はいつまでも地域分権ではなく、市の必需経費であります ✓④植木産地に細河だからこそボランティア精神で管理できる事業です</p>

平成26年7月28日

事業の評価書

池田市長 殿

協議会名 細河地域コミュニティ推進協議会
 代表者名 金子昌義 (印)
 (住宅環境部会長 巽 博一)

記

事業の内容	8 { ①ホタル育成事業(継続事業) ②里山での炭焼き事業(継続事業) // ③街路灯電気量(継続事業) 9 ④八重桜植樹事業(継続事業)
事業実施前の状況	①昨年度はホタル発生時に集中豪雨でかなり流れたが一部発生した ②炭焼きに使用する材料は簡単に準備できるが、里山管理までの費用は協議会予算では無理。一部シイタケ栽培用に利用している ③LED電球の経済性と重要性は理解できたが防犯灯のLED電球の変更は遅い ④まだまだ花見するほど太くなってないが毎年予算を割いて進める
事業の効果	①今年はかなり多くのホタルが乱舞し見学者も多くなった ②炭焼き製品は燃料だけでなく防臭剤・芸術美術品などに利用されている シイタケ栽培は将来性があり里山管理のための伐採を行っていく ③池田市の街路灯は全体的に暗いと市民全体が認識した ④将来は五月山花見と並ぶ有名な花見場所となる
今後の課題	①今年はかなりの見学者が増えたが、網で捕獲する人が増え捕獲禁止看板も設置できず、見学者の良識に期待すのみである ②基本的には細河協議会会員のボランティアで行われているが、里山管理自体は予算は協議会予算でなく大きな分野で検討してほしい ③街路灯の電気代はいつまでも地域分権ではなく、市の必需経費であります ④植木産地に細河だからこそボランティア精神で管理できる事業です

平成26年7月8日

事業の評価書

池田市長 殿

協議会名 細河地域コミュニティ推進協議会
 代表者名 金子昌義 (印)
 (福祉部.法貴 啓子)

記

<p>事業の内容</p>	<p>10) ①細河地区の高齢者で週2回(水・金)要望申し込み者に配達している(継続事業)。必ず、本人に呼びかけ安否確認と元気づける声掛け運動を常としている ②人権センターからの急ぎよ引越して幼稚園園舎を改築し、弁当中止を1回もなく乗り切れた改築に際し、他の部署会員に草刈・清掃・片付け・炊事道具の寄付などの協力をもらった。他のイベントの際には全面的に協力応援する</p>
<p>事業実施前の状況</p>	<p>①高齢者の不慣れもあり、11時過ぎから“弁当はまだか？忘れていないか”の問い合わせ電話が事務所に多くありました。 9:00～12:00 3時間では早め早めの作業で必要人員も余分目に配置が必要で経費がかかります。 老朽化の園舎で長年使用されてない故、改修前に水道管工事からかからねばならなかった。 ②人権センターでは突然の湯茶サービス準備でも前もっての予約が必要で対応できなかった。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>①人権センターでは9:00～12:003時間で後片付けも終了せねばならず、料理の献立も制限されたが、今回からは献立により前日仕込みも可能となり献立の種類も増えた。 能率よく作業ができ必要人員も1名削減で、経費が削減できた。 光熱費がすべて福祉部に直接かかってくるので経費に敏感になったが、週2回では設備の利用度が少なく、事業内容を多くしたり他の協議会へも使用をさせたい 福祉部のチームワークが良くなり、他の事業の応援参加も協力的で、新年会などの親睦会の参加者も増え地元住民の活性化に寄与している。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>①なにぶんにも未使用期間も長く老朽化しているので、屋根からの雨漏り・床からの蟻・虫発生料理熱での窓ガラスの破損などが多く。無償寄付の炊事釜などの故障で修繕費は大きい。 細小廃校でスペースがあるようなら調理部を国道筋に新築し、将来は軽食喫茶も合わせて開店し“小さな道の駅”を始めたい。 それにより地元での雇用を増やし地域の活性化を図りたい。 ②福祉部の女子力が活性化してきたことは、新しい産業の開発に寄与する。</p>

その他	<p>昨年夏、83歳の老人(男性)に弁当配達したとき、老人が衰弱しており病院へ搬送した。一人暮らしゆえ、やむを得ず福祉部の弁当配達員が救急車に乗り込み病院に搬送した。一人暮らしの緊急連絡先は九州長崎県の二男のとのこと。弁当申込時に緊急連絡先の記載の必要性を改めて痛感した。</p> <p>民間の弁当配達員の場合、ここまでできるであろうか。呼びかけ安否確認の必要性を痛感。幸いにも老人は2週間の入院で元気に退院され、協議会事務所みどりの郷に挨拶に見えた。このようなケースに近くの医療福祉の連絡網も周知しておきたい。</p>
-----	--

平成26年7月28日

事業の評価書

池田市長 殿

協議会名 細河地域コミュニティ推進協議会
 代表者名 金子昌義 (印)
 (教育部会長 谷端 隆)

記

<p>事業の内容</p>	<p>12 ①細河～伏尾台へ通じるコミュニティ道路の整備事業(伏尾台協議会と共同事業) 14 ②通学児童の安全を守るため地域住民上げ意識を高める事業(継続事業) 15 ③市民運動会補助金(継続事業)健康増進・住民とのレクリエーション・コミュニティを図る 13 ④子供会育成事業(継続事業)地域ならではの芋ほり体験・いじめ問題防止 16 ⑤グランドゴルフ場運営・整備事業(継続事業) 高齢者の健康増進・初心者でも経験できるように道具一式を常設・雑草管理を徹底し利用者の増大を図る</p>
<p>事業実施前の状況</p>	<p>①本年は残り半分の舗装を完成であったが、福知山地区の豪雨で業者1年遅れととりあえず散策道のフェンス設置を前倒しで行った ②細小前に交通安全の人形を設置。信号を守る標語を記載した ③例年通り盛大に行われている ④地元不死王閣のプール使用の水連学校・冬場はアイススケート教室を継続 ⑤現在は地元和友会の老人クラブが年間定期的に使用しているが、さらに一般の方への使用をPRしたい</p>
<p>事業の効果</p>	<p>①完成図が目に見えるようになり利用者が増加した ②R423で交通量が多いので信号厳守の重要性を認識させて ③田舎的かもしれないが都市部よりもはるかに認識度が高い ④プール試練教室・アイススケートは父兄の参加者多く子供会の充実 ⑤初心者用に道具一式を設置し保管場所は作業小屋の寄付をもらった協力をもっている不死王閣の宿泊者にもご利用いただけるようにした</p>
<p>今後の課題</p>	<p>①利用者が学童だけでなく大人も多くなり夜間の照明設備・さらに入りに口に警備員の配置を必要性も発生してきた ②小中一貫校となり細小の児童はバス通学となる。集合バス乗降駅には雨天時の屋根のある駅舎の建設が必要 ③小中一貫校での住民体育祭はどのようにするのか？小学生は出場する機会が少なく児童・父兄。祖父母と一緒に見学することが薄くなる ④規模的には元細小児童のみでしか継続できない。それに合同企画も入れ込む ⑤駐車場のない細小グランドでは今後は不便。久安寺GG場を宣伝したい</p>